

公立高校に在籍する外国人生徒のための教科学習につなげる 日本語指導の教材開発と実践報告

有本昌代 (大阪府立門真なみはや高等学校)

平成 26 年の文部科学省の調査結果によると、公立学校で日本語指導が必要な外国人児童生徒の数は約 29000 人を超え多様化しつつある。しかしながら現状として限られた時間の中で日本語能力を伸ばし、教科内容も学び、卒業後の進学あるいは就職につなげるためには様々な課題がある。中でも日常会話はできるが教科学習についていけない、考える力が十分に身につけていないケースが課題となっている。その原因として考える力や学習言語を育てるための中高生を対象とした日本語教材がないこと、また日本語指導を担当する教員が日本語の教え方がわからないこと、教員の異動により実績を積み重ねることも困難な点として挙げられる。そこでこれらの課題に取り組むため、高校生を対象とした教科学習につなげるための日本語教材の開発と実践に取り組んでいる。

市販されている日本語教材はほとんどが成人向けで、中高校生が学ぶ際には内容や方法が合わない。日本語能力は中高生にとって教科学習や進学、就職といった将来の道へ進むための土台となる重要なスキルであることから、教科学習の基本となるキーワード、日本語の必須文型と四技能を融合的に学ぶことが効果的と考える。そこで現在開発に取り組んでいる教材は、学校教育で学ぶ際に必要とされるテーマを選定し、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどの様々な活動を通し総合的に日本語を学ぶことを目的とし、その過程で考える力を身に付け、教科学習への橋渡しとなる内容重視の日本語指導用教材である。今後は教材の内容のより一層の充実と他教員による試用を実施し、教材の効果と汎用性を高めたい。今回の発表では開発に取り組んでいる教材を展示し実際にご覧いただき、教材に関連する副教材、デジタル教材の活用法、生徒の学びの様子も紹介したい。日本で学ぶ外国人生徒は将来日本と世界の架け橋となる貴重な人材であり、その育成に貢献したいと考える。